

4000万人の頭痛

78

小児の頭痛

第8回 く小児の脳血管障害、脳動静脈奇形やモヤモヤ病の頭痛について

文 清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

小児の脳血管障害は時に片頭痛と同じような症状が現れ、放置することで生命予後に支障を来すこともあるため注意が必要です。今回はその代表的な疾患である脳動静脈奇形とモヤモヤ病について述べましょう。

脳動静脈奇形とは生来、脳の血管の一部に異常が生じる疾患です。すなわち脳内の一部の動脈と静脈の間に存在する毛細血管が欠如し、流れのはい動脈血が直接静脈に流入するため静脈が異常に膨れ上がり、頭部CTスキャンやMRIなどの画像検査であたかも鳥の巣のような血管の塊が映ります。本来静脈は構造が弱いため、この流れの速い動脈血に耐え切れず、時に脳内出血をもたらす突然の頭痛と意識消失を来すことすらあるのです。

後頭葉という人間の脳内のスクリーンに相当する部位にこの脳動静脈奇形が存在すると、血流異常を来す結果、時に視覚性前兆（眼前にチカチカと閃輝暗点が出現する）を伴う片頭痛と同様の症状が現れることもありますし、また頭頂葉という運動中枢に発生すると、頭痛と共に一時的な手足の麻痺やけいれんを起こすこともあります。出血してからだと、予後に多大なる支障

を来すこともあります。早期に発見された際には、手術やサイズのあまり大きくないものは、ガンマーナイフという放射線の集中照射での治療が可能なのです。

これに対して、モヤモヤ病（ウイリス動脈輪閉塞症）は後天的になんらかの因子により、大脳を栄養する内頸動脈という主幹動脈が徐々に閉塞するため、硬膜という脳を包む膜を栄養する外頸動脈系から主に血流が補われ、脳内の毛細血管が異常に血流を得て膨張します。この状態が画像検査でモヤモヤした煙草の煙のように見えることからこの病名が付けられたのです。

この異常な血流状態は動脈血中の二酸化炭素濃度に敏感に反応するため、熱いものを冷まそうとしたり、ハーモニカや笛を吹いたり、また時にマラソンなどで浅速呼吸を繰り返して過換気気味になり二酸化炭素濃度が低下することにより毛細血管が閉じて血流が低下し、意識消失やけいれんを生じたり、高じると脳梗塞を来すことさえあるのです。また硬膜には三叉神経という知覚神経が密に分布しているためこの硬膜の血流増加に伴い片頭痛と同じく拍動性の頭痛をもたらすこともあるため、

注意が必要です。

日本人を含め、比較的モンゴル系人種に多い疾患とされており、根治的治療としては血行再建手術などの脳外科的な処置が必要となることがありますが、小児が頭痛と共に手足の運動障害やけいれんを訴えた際には、これらの疾患の有無を専門の医療機関で一度は精査することを勧めいたします。

Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーンケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。「頭痛女子のトリセツ」（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」
監修／清水俊彦 推薦／佐渡島庸平
新紀元社（1,080円（税込））販売中。